島根・山口グローバル・セミナー2008

講義5「途上国における教育の質的向上を目指して:NGO からの提言」

赵　中华

セーブ・ザ・チルドレン中国プログラム・ディレクター

要旨（和訳）

一般の認識では、開発に従事する非政府組織（NGO）は、世界の至るところで小さな成功を収めてきてはいるが、社会間、あるいは社会内における力関係・資源の配分を決定づけるほどに社会組織・構造を変える影響をもつには至っていないと捉えられている。その結果、NGO の活動が貧困者の生活に与える影響は未だ限られている。できるだけ多くの人々に効果的な援助を提供し、人々が自分の力で生存し発展できるようにするために、国際開発 NGO はアドボカシー（政策提言、権利擁護）活動を通して、途上国政府の政策やその実施に影響を及ぼすことを目指している。世界的に見れば、質の良い教育は途上国の子供たちにまだ届いていないため、途上国の教育政策・教育実践こそ、国際開発 NGO がアドボカシー活動により集中的に改善しようとしている分野となっている。本講義では、中国での具体的な未発表のケーススタディーを取り上げ、子供の権利を擁護する国際 NGO、セーブ・ザ・チルドレン UK が、わずかな予算でどのようにアドボカシーを活用し、少数民族の子供の教育、教師教育、学校と地域の関わりの面で重要な変化を生むに至ったかを説明する。さらに、それらの学校がより効果的な教育結果をもたらしていることから、NGO 活動に政府も注目し、中国の他の地域にも同様の活動を広めようとしている。